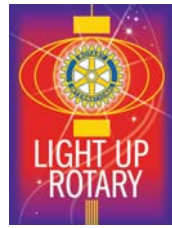




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 7 月第 3 例会 (2014.7.15) No.3048

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて、先週に引き続いて、今も「平和と紛争解決」を取り挙げますが、「平和」は国際的なものだけでなく、国内における社会の安寧という意味でも考えられると思います。本日の会長挨拶では、この事柄からお話したいと思います。

2011 年 8 月 6 日、私は出張でイギリスに到着しました。既に気づかれたかたもおられるでしょう。私は、あのイギリス暴動が勃発した初日に到着したのです。

ホテルについて一息ついたところでテレビを点けました。ロンドンで黒人青年が警官に射殺されたというニュースが流れていましたが、最初はとてつもない出来事になるとは感じていませんでした。この出来事とその影響についてのニュースは、繰り返し報道され、その間隔はどんどん短くなっていきました。チャンネルを変えましたが、しばらく経って気付いた時には、どの局もこのニュースを流していました。

経緯としては、8 月 4 日 ロンドンで黒人青年が警官に射殺され、6 日警察署前で抗議行動があり、暴動が発生します。6 日夜～7 日にかけてロンドン各所で暴動が起こり、8 月 8 日深夜～9 日にイギリス各地に波及し、11 日沈静化します。暴動・放火・略奪の容疑による逮捕者は、8 月 25 日までに 2000 人にのぼり、死者は 5 人、地元の商店街を略奪から守ろうと集まったボランティアの住民 3 人がひき逃げされ死亡するという惨事もありました。経済的損失は、8 月 11 日時点で 2 億ポンド (250 億円) 以上だったと推算されています。そのとき撮影してきた写真がありますので、すこしご覧ください。

さて、この事件について思うことを三点お話したいというのが、本日の趣旨です。

第一に、暴動・紛争は突然にどこでも起こりうる、いわゆる先進諸国の大都市であっても、ということです。

次に、抗議行動が大規模な暴動に変わってしまった原因はなにかということです。暴動に加わった多くの人々は無職の若者達でした。つまり、将来に希望がもてる職場がないことに対する悲嘆・不満の爆発が背景にあったようです。では、そんなにイギリスの失業率は高いのでしょうか。データを見てみると、昨年統計ではイギリスの失業率は日本の倍近くになっています。

確かに高いといえるでしょう。しかし、実は、世界的にはイギリスの失業率も日本の失業率もあまり変わらないのです。逆に言えば、日本にとっても人ごとの問題ではない、ということです。つまり、強く感じる第二のことは、将来を担う若者たちに未来に希望がもてる職場や役割を提供することが急務だということです。このためには、企業等の健全な運営・発展が不可欠ですが、ロータリー＜職業奉仕＞の理念は、このような脈絡の中においても、再認識する価値のある理念かと存じます。

そして、暴動をめぐる問題は無職の若者だけにかかわるものではなかったという事実があります。貧困層とは無関係の、10 代から 40 代までの様々な人々が暴動に加担していたようです。さらに、混乱に紛れてボトル入りの水を盗んだ学生、フェイスブックで暴動をあおった人たち、罪に問われた子供の裁判を欠席する親が多数にのぼったことなどが話題になりました。イギリスの新聞の社説は「貧困、失業、消費主義の問題を越えている。イギリス社会は善悪の規範、倫理観、責任感を失った」と慨嘆しました。

非常時の行動に社会の質があらわれるということが痛感されます。この点ですぐ思い起こされるのが震災時の日本人のふるまいですが、みなさんご存知のように、それを世界が高く評価していることは、ありがたいことです。では、非常時におけるロータリアンの行動指針とはなんでしょう。いくつも重要なアクションがあるかと思います。しかしここで私は、わが新潟クラブのあるロータリアンの行動を紹介したいのであります。

震災の時、被災地から多くの外国人労働者が新潟に殺到し出国しようとした。そのとき彼らは、宮城や福島で預けたお金が J A 県信連で引き出せることを知り、桑原さんのところに押し寄せました。外国人に対応できるスタッフのキャパシティを超える、しかも日本語が全くわからない労働者たちが押し寄せ、預金を全額引き出そうとしましたが、コミュニケーションできないために必要な手続を行うことに難航し、大混乱だったそうです。そこで桑原さんは、私のところに訪ねてきました。銀行での手続を一問一答式にして日本語と外国語の対訳シートを作り、普通のスタッフでも、それを指さしながら、日本語ができない外国人に対応できるようにしたい。それを 5カ国語で作りたいが協力してくれないか、というお話でした。そのとき桑原さんが言った言葉が印象的でした。「言葉がわからない異国にまでやってきて必死に働いて苦労して国に仕送りしていた人たちが、とんでもない怖い思いをして、国に帰ろうと必死になっ

ている。今まで苦勞して稼いだお金も渡してあげられないようではあまりにも可哀そうだ。せめて稼いだお金をきっちり持たせて国に帰してあげたいのです。どうか協力してください。」

非常事態であれば通常想定できないようなことが起こり、業務に思いがけない支障が生じることは珍しいことではありません。しかし、それでも、顧客の立場から考え、非常事態だからこそ、職業の社会的使命を貫き、全うしようとする。それでこそ、社会が揺るぎなく支えられ、国際的にも信用される国となる。これこそ、職業奉仕ではないでしょうか。

いかがでしょう。私が強く感じる第三のこととは、非常時においても、むしろ非常時においてこそ社会から託されている職業的使命を全うすることが大切で、これこそ、ロータリー＜職業奉仕＞の理念に他ならない、ということです。そしてそれこそ、信用できる社会、未来に期待がもてる社会の基礎となるのではないのでしょうか。

(3) 同好会報告

・高橋 清文野球部監督より、7月30日前 GM 小柳実さんへの感謝の集いを下記の様に計画致しました。是非、ご出席ください。 7月30日 6:30～ イタリア軒 大観苑 会費 5,000円

(4) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

本間 彊君

(5) ニコニコボックス紹介

・塚田 正幸君 1)前々年度、下岡会長年度にロータリーアクト委員会に所属して新潟ロータリーアクトクラブの会報「つくし」を作成しました。この「つくし」は昭和45年新潟ロータリーアクトクラブ設立時から20年ほど会報として存在しましたが、その後無くなり、今回復活させました。本来1年前に完成予定でしたが、編集、製本に手間取り1年遅れでようやく6月末に完成しホッとしました。2)7月8日の新潟日報朝刊に私の横顔がチラッと出たので(自分では気が付かず、人に言われてわかりました)。

・桑原 隆君 最近、JAは減多にほめられませんので、ニコニコです。東日本震災時、中国人がタクシーで窓口に押し寄せ、とまどったことを思い出しました。高橋教授には、大変助けていただき、ありがとうございます。

・鈴木 滋弥君 先月末から今月にかけて12日間の南イタリアの旅へ行って来ました。沢山のローマ遺跡を見物しパスも沢山食べてニコニコです。

(6) 表彰等

・徳永昭輝(あきてる)さんへ米山功労者第20回メジャードナー感謝状と記念品贈呈

・福地 利明(としあき)さんへ米山功労者第7回マルチプル感謝状贈呈

・石本隆太郎(りゅうたろう)さんへ米山功労者第7回マルチプル感謝状贈呈

(7) 卓話「新潟地方気象台の業務」

新潟地方気象台台長 安藤正 氏



(8) 本日の出席率 79.13 %

(2週間前メーク後 86.37 %)

7月22日の例会予定

「前橋ロータリークラブとの合同納涼例会」

17:30 開会 イタリア軒

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata

パスワード rcrerc